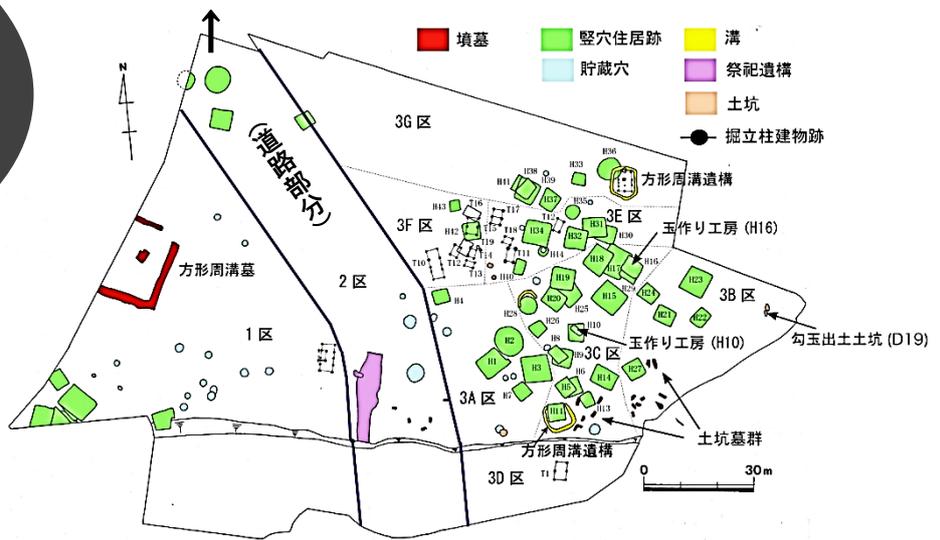


すごいで！ 城野遺跡

(北九州市小倉南区域野)

(JR城野駅まで徒歩3分)

主な遺構の配置図

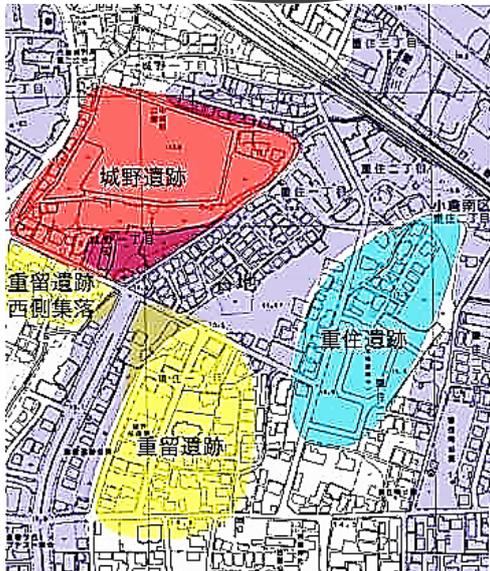


●1800年前の弥生時代の集落を丸ごと発見<上の配置図>

東側は弥生時代中期から後期の住居が密集して 40 軒ほど築かれており、そのうちの 2 軒が玉作り工房として、水晶と碧玉(へきぎょく)の玉を製作していた。一方、西側はコの字形に溝がめぐる方形周溝墓のまわりには住居がないことから、居住域とお墓を明確に分ける集落の規制が代々守られていたことがわかる。

●近くに国指定重要文化財が発見された重留遺跡も所在<左上の地図>

城野遺跡の南側には住居跡に祭祀用の広形銅矛(左)を埋めた状態で見つかった重留遺跡が存在する。この銅矛が 2016 年 8 月に国の重要文化財に指定された。



←広形銅矛(ひろがたどうほ)
重留遺跡・国指定重要文化財



●九州最大規模の方形周溝墓、手厚く葬られた幼児の石棺 2 基、石棺に描かれた方相氏の絵画

集落で一番高い台地上に築かれた方形周溝墓。2 基の小さな石棺(上中右)に葬られた幼児は、高価な玉のネックレスを身につけ、貴重な鉄の工具も持っていたこと、また真っ赤な水銀朱(中国産)が惜しげもなくお棺にまかれていたことから、この地域を統括するリーダーの子どもであったと思われる。南側の石棺の枕元には、子どもを悪霊から守る「方相氏(ほうそうし)」=「武器の『戈(か)』と『盾(たて)』を持つ四つ目の仮面をつけた人物」(上右)が描かれている。方形周溝墓での葬儀の様子の想像図(上中左)。幼い二人の子どもを相次いで失い、悲しみに暮れる母親。



●九州で2例目の玉作り工房を発見

貴重な玉作り工房の発掘作業(左)。丁寧な発掘作業で 20,000 点近い石のチップと鉄製工具類も出土。作りかけの水晶玉には穴がけられている(右上)。ヒスイの緑色が美しい勾玉(まがたま)も付近で見つかった(右下)。穴をあけるときに割れてしまった碧玉(へきぎょく)の管玉(くだたま 右下)。玉の素材は、地元産の水晶のみならず、新潟県糸魚川産のヒスイ、山陰地方の碧玉などである。

ホームページ「城野遺跡の現地保存をすすめる会」で情報を発信しています。ぜひご覧ください！